

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

名誉会長や最高顧問に気兼ねしない 鬼頭 季郎 (東京高等裁判所・元裁判長)

1. 裁判官の判断は、確定した過去の事実などを前提とした静止的なものである。これに対し経営を舵取りする際の判断は、将来の事態を予測して計画などを立てるものであり、絶えず修正可能な極めて動的なものだ。
2. 会社訴訟事件などに携わってきた約 40 年間の裁判官生活の中で私が感じたことは、いかに静止的な経営判断が多いかというものだ。東芝の新世代DVDからの早期撤退や松下電器産業の社名変更といったアクティブな経営判断はむしろマイナーだ。名物経営者が敷いた路線を否定できず踏襲するような例は枚挙に暇がない。そうした先行判断踏襲型の経営ばかり目につく。経営判断はより機動的であるべきではなかろうか。
3. 名誉会長や最高顧問の方々は、自分が作った事業が見直しや撤退となっても自分に対する批判とか非難だと受け取るべきではない。現経営陣の人たちは先輩やかつての上司が敷いた路線に気兼ねし躊躇<sup>ちゅうちよ</sup>している場合ではないのである。 (参考:「日経ビジネス」2008年4月28日・5月5日号)

## 幹部への活きた言葉

成長するためには反省すること

塩沼 亮潤 (慈眼寺住職)

1. 人として成長するため、あるいは現代社会がより一段高い意識で成長していくためには、まず「反省」が必要だと思うのです。よく反省すること。現代社会には、とかく物事を批判的に捉える傾向があります。批判的な視線で物事を見ているうちは、自分の成長も、あるいはこの国の成長もないのではないのでしょうか。
2. 反省の中に日々の成長が生まれ、自然と自重<sup>じちよう</sup>するようになります。そうしますと、慎み深く人間は生きるようになり、立ち居振る舞いが変わってまいります。立ち居振る舞いというのは、言葉遣いであったり、行動であったり、自分の心の持ち方のことです。こうして一人ひとりの人格が変わり、品格が備わっていくのだと思います。 (参考:「致知」:2008年9月号)

## 人事・労務について

リーダーは目標を示し若手に任せる

小柴 昌俊 (2002年ノーベル物理学賞受賞)

1. 総大将が1人でいいというのは、責任者がはっきりしていないと、プロジェクトが空中分解してしまうことがあるからです。責任者は目標を明確に定めてその方向に引っ張っていくことが必要です。下の者に任せるといのは、これほと思う若い人がいたら、早すぎると思っても責任ある地位に就けなさい、ということです。重要なポストに就くことで、能力のある人はぐんぐん成長します。
2. リーダーは、共通の目標、つまりわれわれは何を狙っているのか、それを皆に正しく認識させ、任せる。失敗の責任は総大将の自分にとる。これは研究の世界だけでなく、あらゆるプロジェクトに通じることだと思います。 (参考:「週刊東洋経済」2008年6月7日号)

## 古典に学ぶ

山岳も昼夜をおかず

「山岳も亦昼夜を舍かず。川流も亦寂然として動かず」

(訳) 山は草木を生やし<sup>は</sup>たり、岩石を変化させているように常に動いている。川の流れも日夜動いている川自体は寂然として動かない。 (参考:佐藤一斎「言志四録」): PHP文庫